下野市子ども・子育て会議 議事録

審議会等名 令和6年度第2回下野市子ども・子育て会議
日 時 令和6年10月10日（木） 午前10時00分から11時50分まで
会 場 下野市役所 304会議室
出席者 一戸幸宏委員、大橋なみ子委員、新田知明委員、金澤芳之委員、
小倉庸寛委員、野口恵美委員、佐間田香委員、近藤令兒委員、
藤川智子委員、荻原健一委員
【欠席委員】小池里美委員、川中子源委員、津野田仁大委員、中田好則委員

市側出席者 （事務局）荻原健康福祉部長、浅香子育て応援課長、
添野子育て応援課課長補佐、篠原子育て応援課課長補佐
山家子育て応援課課長補佐、大越子育て応援課主査、
小林子育て応援課主事

公開・非公開の別（ 公開 ・ 一部公開 ・ 非公開 ）

傍聴者 0名
報道機関 なし
議事録（概要）作成年月日 令和6年10月11日

1. 開 会

（事務局、浅香課長）

おはようございます。定刻となりましたので、ただいまより令和6年度第2回の下野市子ども・子育て会議を開会いたします。本日の出欠状況ですが、事前に小池委員、津野田委員、中田委員からご欠席の連絡を受けております。川中子委員が少し遅れているということではありますが、現在11名の委員の出席があります。子ども・子育て会議条例第6条第2項の規定を満たしておりますので、会議が成立することを報告いたします。それでは会議に先立ちまして、部長の荻原より挨拶を申し上げます。

（事務局、荻原部長）

皆さん、改めましておはようございます。お忙しい中、第2回の子ども・子育て会議にご出席いただきまして、ありがとうございます。急に夏から晩秋へと寒いぐらいの陽気が昨日今日と続いており、日が短くなったなど感じます。先週まで各保育園におかれましては、運動会の行事をされていたと思いますが、準備等を含め本当にお疲れ様でした。私が行かせていただいたところもありましたが、久しぶりにああいいう場を拝見し、昔の自分の子ども達を思い出して、非常に和やかな雰囲気楽しかったなどと思います。ビデオを撮っていらっしゃる方が大勢いらっしゃって、私もよくビデオを撮りましたが、本当に下手で違う子を撮ってしまったというのをよくやりました。やは

り生で自分の目を見た方がいいのかなとも感じました。また先週、市長のいきいきタウントークを行い、いろいろな市民からご意見をいただけてきたところです。来年度の市の予算も始まっています、子育てに関する民生費、これは高齢の方、障がいの方も含めてですが、100億に近い予算です。市の予算は大体260億ほどの予算規模でありますので、そのうちの4割程度はこの民生費が占めており、市の根幹をなす一番大きな予算規模となっております。そういった中で、次期計画を立てていくことは非常に大事なことでありますので、皆さんから忌憚のない意見をいただければと思います。本日は議題が二つほど用意されておりますが、いずれも非常に重要な議題となっておりますのでよろしくお願いいたします。簡単ではありますが、挨拶とさせていただきます。

(事務局、浅香課長)

ありがとうございました。佐間田会長よりご挨拶をお願いいたします。

(佐間田会長) おはようございます。お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。特に保育園の先生は運動会の時期で、忙しい時期にお集まりいただきありがとうございます。いよいよ次期計画の策定となります。今の子ども達、それからこれから生まれてくる子ども達が大人になるまでというと、今だけではなくて、これから20年後、30年後、40年後の未来を少し想像してみてください、この子ども達が安心して暮らしていけるような計画をぜひ皆さんから案を出していただきたいと思います。前回の会議で、僕達の未来不安しかないと言っていた私の子どもの話ですが、その子ども達がまた今の0歳の子どもが、大人になったときに子どもを産もうという社会を実現するためにはどうしたらいいかというのが、今日の議題になってくると思います。どうぞ皆さん忌憚のないご意見をよろしくお願いいたします。そしていつものことですが、意見に間違いはございませんので、自由にご発言をよろしくお願いいたします。

(事務局、浅香課長)

ありがとうございました。それでは議事に移らせていただきたいと思えます。下野市子ども・子育て会議条例第6条第1項の規定によりまして、会長に議事の進行をお願いしたいと思います。佐間田会長よりよろしくお願いいたします。

(佐間田会長) では、まず議事録署名人の選任を行いたいと思えます。今回の議事録署名人は野口恵美委員をお願いしたいと思います。それでは議事に入ります。「第一期下野市こども計画（仮称）」について、事務局から説明を求めます。

(事務局、添野課長補佐)

【資料1～資料7に基づき、下野市こども計画（仮称）について説明】

(佐間田会長) ありがとうございます。ただいま事務局より説明がありましたこの内容について、何か質問や意見がありましたらお願いします。ボリュームがありますので、もう1度見返していただきながら、ご意見ある人は自由に発言をいただければと思います。

(近藤委員) 順番はどこからでもいいですか。例えば、No.5からやるとかありますか。送られてきた資料の中で、私は一番アンケートが気になっていて、アンケートからだんだん上に見ていきました。順番では6番目ですが、アンケートからでもいいですか。

(佐間田委員) はい。今日はとりあえず意見を頂戴していますので、気になるところがありましたら、よろしく願いいたします。お名前を言っていただいてから発言をお願いいたします。

(近藤委員) 主任児童委員の近藤令兒です。私はメールアドレスをスマホのもので設定してしまったので、送られてきたものが見えなかったというのと、それを家のパソコンに送って見るとチェックができないから、資料はそれぞれで印刷するということなのかなと思いました。私の場合そんな時間はないので、資料を印刷していただいたら、取りにいきます。だから最初にそれをお願いしたいです。他の方はわかりませんが、事務局で印刷した資料を取りに来る方法だったら、私は取りに来られます。アンケートの内容は結構いろいろな結果があって面白いなと思いました。No.6の1ページ目では、あなたが興味あることは何ですかという問いで、医療や介護とかに丸をつけている人が結構多いなと思いました。問3の答えの集計はグラフですが、%表示ではなく何人とかの方がわかりやすいなとは思いました。120人の65.9%って何人だろうと思いました。また問3だけはその他の欄がなく、この中から選ばなくちゃいけないから、その他があった方がいいなと思いました。

(事務局、添野課長補佐)

ご迷惑をおかけして大変申し訳ございません。資料につきまして、今回はデータのみ送付で失礼してしまいました。紙のものも今後そのようにさせていただきます。おっしゃられた通り、回答が全て%表示になってございますが、近藤委員からご指摘いただいた件を踏まえまして、確かに今回は人数表記の方がわかりやすいというところ、ここだけではないのですが、そのあたりは改善をさせていただきたいと思っています。また問3について

は、確かにその他の欄から設けてごさいませんでした。そこは反省点だというふうに捉えてごさいますので、今後アンケートをとる際にはそのあたりを工夫して改善を図ってまいりたいと考えております。

(佐間田会長) この事業照会結果一覧は、現在いろいろな課で子どもに関わる事業をなさっているものが一覧になっているかと思えます。日頃から教育委員会でも、この子どもに関わる事業を推進しているところではありますが、この事業は子育て応援課と繋がった方がいいだろうなと思う事業とかがあり、どこまで情報が共有できているだろうかと思っています。例えば、保健や身体に関しては、就学前の子どもは全部こちらなのかなと思いますが、就学してしまうと発達がグレーでまだ診断がついていないような子が本当はこっちと繋がった方がいいのだろうけれど、繋がってなかったりします。情報共有の場は多分あるかと思えますが、個人情報をごどこまで共有しているのかがわからなく、いろいろな事業がある中で、どのように個人情報が行き交われ、どの程度共有して、どの事業に活かされているのかがわかりづらく、これはすごく大事なことです、少し聞きたいなと思いました。わかりましたら、お願いいたします。

(事務局、添野課長補佐)

ありがとうございます。今会長からおっしゃっていただきました様々な個人情報を含めました情報の共有と各課での連携についてということですが、健康福祉部、5つの課でそれぞれの入口から同じ対象者についての課題について支援を行っているケースがございます。そういった一つひとつのケースについて、各課の担当者が集まる情報共有の場というのは、ケース検討会議という形でございます。それ以外の部分では、四つの課が縦で作業を進めているところでもあります。個人情報の保護で慎重にならざるを得ないところもありますが、本来であればもう少し共有できる部分があればという課題は職員の共通認識として捉えているところでございます。今回策定させていただきますことも計画がまさにそういった情報の共有と連携を図る一つの指針となるべきものだというふうに捉えております。健康福祉部内だけではなく、教育委員会等々、こういった事業を進めるにあたっての情報共有ということにつきまして、より深いものとしていけるよう周知および検討、研究を図ってまいりたいと考えております。

(佐間田会長) ありがとうございます。あともう1点、事業照会結果一覧について、この内容が包括した状態で次の計画が策定されるのか。それとも、これに新しいものがプラスされていくのでしょうか。

(事務局、添野課長補佐)

今回のものは一旦洗い出したものを一覧表にしたものですので、まだここに反映されてない事業もごございます。そういったものを掘り起こして、さらに充実した形でこの第3章の中に落とし込んでいけるようにしたいと考えております。

(佐間田会長)

ありがとうございます。あと事業計画一覧の文言についてと、こんなものがあつたらいいなと思っているものがあります。まず1つ目はこの事業照会結果一覧の上から3つ目の母子保健対策強化事業に子育てアプリの導入がありますが、この文言がいつまでも母子保健なのだと思いました。法律的なものなのではないかと思っておりますが、どこかのページには保護者、養育者などと書いてあつたりします。これでは母子の負担は変わらないと思いました。また個人的な意見になりますが、将来に対する不安を考えたとき、お金の不安が大きいと思っていて、それは経済的支援というものだけではないとも思っています。例えば相談窓口の中に、ファイナンシャルプランナーに若い世代が自由に相談できたら、嬉しいなと思いました。あとはもう1点、今発達障がいのあるお子さんがすごく増えている印象です。子どもの人口は減っているので、その割合が大きくなっています。その子ども達が10年後、20年後大人になったとき、ちゃんと生産人口に加わらなければならないし、仕事して社会をまわす力になりえなければ、この社会は崩れていくなと思っております。そういった方への支援窓口があると、いろいろな方々が安心して働けて、安心して暮らしていけるのかなと思っております。他にも意見のある方は、よろしく願いいたします。

(近藤委員)

資料 No. 5 の下から3番目の行に、地域社会全体でこどもと子育て家庭を支援し、と書いてありますが、地域社会全体となると、近所を見ても子育てに地域の人に参加しているということをあまり見ません。うちは田舎なので、小金井の方みると、引っ越してきた方、マンションやアパートとかに住んでいる方は、その地域の中でこどもを育ててほしいと思っているのかが疑問に思います。干渉されたくないという人もいるし、地域の行事に参加したくないという人もいるし、地域社会全体でこどもを支援するというのには結びつかないような感じがします。地域の全体と言ってしまうと、最初から無理な目標に感じますし、もう少し違う言い方がないのかなと思いました。

(事務局、添野課長補佐)

ありがとうございます。おっしゃられる通りで、社会の形態が変わる中、多様性が叫ばれる時代でございます。こういった一つの形として定義づけるものでなくて、様々な形、様々なニーズに応えられるような支援のあり方というのを考えてまいりたいと思っております。全体という表現をしてしまいました

が、これは検討させていただき、修正に向けて調整させていただきたいと考えております。

(近藤委員) 表現が駄目ということではありませんが、自分のことで精いっぱいなお年寄り世帯や一人暮らしの人が増えて、自分達が子どものときはこうだったからと、近所の人が子ども達に何か言ったりすると、逆に変なこと言われてしまったりすることもあります。言いたいことはわかります。

(小倉委員) 吉田保育園の小倉でございます。どうぞよろしくお願いいたします。これを読んでいたときに、これは大変な労力になるだろうと思ったので、前回の2期の資料を見返すと、前回のものは見やすいなと思いました。例えば、政策が表になっていたり、短い文章で書いていたり、政策一覧も表にしたりしてわかりやすくしていました。これから修正していくということですので、そちらに期待したいなと思っています。それから第2章の人口動態等の現状という資料で、(1) 総人口は令和6年まで、(2) 人口の推移は令和6年から11年まで、(3) 世帯の状況は令和6年まで書いてありますが、(4) 出生の状況は令和4年までしか書いていません。(5)、(6) も令和5年以降の数値がわかりませんが、調べれば出ているかもしれません。栃木県保健統計年報を見たら、令和5年の正確な数値は載っていないのでしょうか。この統計年報で見られなくても、参考値として人口統計調査でこの人数がわかるかとも考えられます。栃木県幼稚園連合会でも各市町に総人口を問い合わせ、集計を取っているので私達はわかっています。でも載せられないというのはやはり理由があるのかなと思います。せめて参考値として令和5年、6年も数値を載せていただかないと、この計画を見たときに、今はどこまでできているのかわかりません。令和4年から令和5年と減っていて、6年もさらに減っています。どのように減っているのか、なるべくそこは載せた方がいいと思いました。(6) 女性の就労状況も令和2年までしか載っていないですし、令和2年はもうずいぶん前ですよ。その下の(5) 要保護児童は令和5年まで載っていて、年数がバラバラな感じがします。続いて2. 教育保育事業等の実施状況で、先ほど会長からもお話がありました支援の必要な方の施設については一つも書いていなく、(3) 認可外保育施設の後に、障がいのある児童が利用できる施設が載っていてもいいのではないかと思います。そういうお子さんが多くなってきている話もありましたし、アンケートの内容でも障がいのある人に関する状況のデータも出しているので、そういったところも載せた方がいいのではないかと思います。それから(5) 基本理念について、このページは検討中ということですので、ぜひ検討していただきいいものができるといいなと思います。ただ、この文章の内容を前回のものと比べてみると、これから目指す姿は、前回の目指してきた姿にリンクしないといけないと思っていますが、あまりリンクしてないような気がします。人権が尊重

されるということは、前回あまりそういう文言は入っていませんでした。もちろん夢を持って笑顔で過ごすことを目指してきたというのは大きく言えば当てはまるかもしれませんが、子育てをきめ細やかに支援することを目指していきたいというのが前回の基本理念の中にあるのかなと思いましたが、地域社会、市全体で子育てを支援できるような下野市を目指しますということは、そうするとよくわかるのかなと思います。近藤委員のお話にもありましたように、地域社会は一体誰を指すのか。多くの人とか、地域の人とか、何か違った文言でもいいのかなと思います。地域社会という言葉がいっぱい出てきて、よほど地域に子育てさせたいのかと思いました。一番初めに会長がお話した希望というのが、なんとなくテーマになるのかなと思います。子ども達が将来に希望を持てるような下野市になるということが、基本理念の中に入ってくるといいのかなと思ったりもしました。続きまして、その後からの基本目標はずっと箇条書きで、それは全部直していただけるということで、わかりやすく表にして直していただくのかと思っています。基本目標4の課題に、こどもまんなかアクションという言葉が急に出てきます。こどもまんなかアクションというのは、国の言っているこどもまんなかアクションですか。こどもまんなかアクションは下野市で考えたことなのか、国が考えたことなのか分かりません。これはこども家庭庁のことですよね。こどもまんなかアクションの内容についてのURLを付けるとか、こういったところに載っていると書くとか、工夫があるといいと思います。こども家庭庁が出している初めの100ヶ月の育ちビジョンのこともこれには書いてありましたが、そういったことなど国が推奨していることをQRコードからすぐに説明が見られるようになると、こどもまんなかアクションがどういうものなのかがよりわかるのかなと思いましたが、最後に佐間田会長がお話していたことで気がつきましたが、事業照会結果一覧4の後に、前回は5がありました。全ての家庭子どもが幸せに生活するための支援というのがありますが、これからこの欄を作るのですか。それとも今回はないのですか。

(事務局、添野課長補佐)

その辺りもこの後精査してまいりたいと考えております。

(小倉委員)

ここが重要ですよ。先ほど佐間田会長が言った通り、このインクルーシブという考え方が今日本に浸透していて、障がいというものが本当に障がいのないのか、それとも軽い特性なのか、障がいに対する考え方を市が示していかないと、また子ども達にもそういうことを伝えていかないと、いい市になっていかないと。子ども達が生産性を持ち、市民として税金を納められるような大人にしていかなくちゃいけないわけですので、そういったことも含めると、ここの部分はすごく重要で、他の施策もどれだけなくちゃいけないのかがわかっていくと思います。この部分がなくなってしまうということは

大変なことだとも思いますので、そこは間違いなく5以降をしっかりと作っていただければと思います。

(佐間田会長) ありがとうございます。他にはないでしょうか。では次の議事に入らせていただきます。最後にまたご意見があればお願いしたいと思います。(2) 特定教育・保育施設の利用定員について、事務局から説明をお願いします。

(事務局、篠原課長補佐)

【資料8～資料9に基づき、特定教育・保育施設の利用定員について説明】

(佐間田会長) ただいま事務局よりご説明がありました。この内容について何か皆様からご意見等ありますか。ご意見がなさそうですので、本日の議事につきましては以上となります。この後進行を事務局に戻したいと思いますが、この前の議事についても何か言っておきたいことはありますか。大丈夫でしょうか。事務局に戻してしまう前に、皆様から一言ずつご意見ご感想などいただけたらと思います。

(一戸委員) 一戸と申します。よろしくお願ひいたします。私が住んでいる地域も本当に子どもが少ない状況で、周りもおじいちゃんおばあちゃんばかりです。私の子どもも30歳を過ぎていますが、その頃に比べると子どもが本当に少ない状況で大変だと思っています。こういう計画を自分にしっかりと落とし込んで、下野市に協力できればと思っていますので、どうぞよろしくお願ひします。

(新田委員) 新田です。意見は特にありません。内容が少し難しく、よくわからないので、また資料ができたらしっかり読んで理解したいと思います。そのときに意見があったら、発言させていただこうと思います。

(佐間田会長) ありがとうございます。わからないというのも大切な意見だと思いますし、市民の皆様がわからなければ意味がないと思っています。ご意見ありがとうございます。

(金澤委員) 薬師寺幼稚園の金澤です。私個人としては、こういった計画の策定に関わるのは初めてで、いろいろなニーズを読み取られたうえで、大変苦労されて作られていることでわかります。大変お疲れ様ございます。私も来年小学校に入学する子どもがいます。上の子のときは、古山小が3クラスだったのが、2クラスになりました。これから人数が少なくなっていくお子様を保育の方では、よく最善の利益とか最善の福祉とか言いますが、やれる範囲でしっかり見ていかなければいけません。私ども施設としても気合を入れて頑張っていきたいと思っています。

(野口委員) しば保育園の野口です。今日はありがとうございます。私何も意見言えなかったのですが、近藤委員、小倉委員、佐間田会長とかのお話を聞いて、さすがだと思いますし、いろいろなことを言われることで、本当にそうだな、そういうところそうですねと思いつつ、考えていかなくてはいけないなと思いました。地域のことで少しお話したいなと思ったことがあります。保育園は地域交流が結構ありまして、地域の小学校、中学校、高校、あと実習生とかも来ます。しば保育園は支援学校の方とも交流がありまして、いつも高等部の人に来てくれて、小さい子と遊んでくれたり、太鼓見せてくれたり、踊り見せてくれたり、そういった交流も近いので来てくれます。お花も支援学校の保護者が植えてくれて、園に飾ってあったりします。そういう交流は子ども達がすごく喜んでいて、高等部の子ども達も喜んで来てくれています。また、近くに小山北桜高校があるので、昨年ぐらいからぜひインターンで来たいと言ってきて、積極的に子ども達が来てくれています。それがすごくありがたく思っています。実習生で来た子ども達が公立の保育園や市に就職してくれて、昔実習で来ましたなんて話もします。他に、グリム保育園では老人ホームが近くにあるので、そちらの方と交流をしていたりします。そういう交流をこれからもどんどん続けていけたら、ありがたいなと思っています。本日はありがとうございました。

(近藤委員) 今の話を聞いていたら、基本理念でさっき言った地域社会全体というのは、学校とか、そういう保育施設みたいなところが入ってもいいのかなと少し思いました。これを読んでいくと、本当に新田さんのおっしゃったように難しく、これ誰向けなのだろうとか思いましたし、句読点が多いから本当にここに点があるのかなとかも考えたりしました。また、社会情動的スキルという言葉が出てきて、そんな言葉は聞いたことなかったので調べてみました。最近で出てきた言葉でベネッセの人がどうこう書いてあり、なるほどなと思いました。結局三つ子の魂百までみたいなことで、いろんなことを小さいときにやっておけば、遊びや生活も、そういうのでいいよということで、改めて違う言葉で出てきたのだなと思いました。だから今回、自分もとても勉強になったなと思います。ありがとうございました。

(藤川委員) 助産師会から参りました藤川です。今回の小学生のアンケートを見ていたら、近所の人に挨拶しますかという問いに、半分ぐらいしていないとの回答でしたので、もしかしてこれは家の中でも親子で挨拶していないのかなと思いました。例えば教育の中では、家庭の中でちゃんと挨拶するということが自己肯定だとか高められるみたいな項目もあつたりします。保護者の方へお伝えするときには、生活の中でそういった習慣は大事だというお話もします。出かけるときに子ども達が登校班で前を通ったときには、おはようと挨拶を

したりしますが、誰も挨拶を返してもらえなかったりしたので、最近あれっ
て思ったりしていました。保護者に伝えられるような、そういう機会を設け
てもいいのかなと思いました。あと私は赤ちゃん訪問、見守り訪問、産後ケ
アとかに携わっていますが、赤ちゃん達を見ると、よく話しかけられている
赤ちゃんはあまり泣かないんです。泣かなくて、お母さん達も子育てが楽し
いという感じですが、パパかママどちらかがうまくコミュニケーション取れ
てないと、赤ちゃんは泣くんです。泣かせない方法を教えてくださいとか言
われたりしますが、赤ちゃんへの言葉かけがすごく少なくなっていて、赤ち
ゃん自身の自己肯定感を高める関わりが、小さい頃から今はできていないの
かなと少し思います。ですので、そういうお父さんお母さんが興味持ってき
てくれるのが、パパママクラスであったり、ファミリークラスであったりす
ると思いますので、そういった内容も入れてほしいなと思います。あと、私
達助産師会でも下野市を会場にして、育児サロンを展開しています。そこ
でもやはり自己肯定感を高めるような関わりを持とうということで、愛着形成
にすごく重点を置いてやっています。市の予算を使っている活動ではないの
で、こういう計画の事業に入ってくないと思いますが、情報提供の中に一行
を入れてもらうといいなと少し思いました。

(荻原委員) 私も田舎の方に住んでおりまして、下野市の状況はあまりわかりませんが、
下野市のイメージとしては栃木県内でも人口が増加している地域で、小山市
とかと一緒に今後期待されている地域でもあるのかなと思っています。資料
No. 3の合計特殊出生率を見ますと、栃木県を大きく上回っていて、やはり何
らかの政策を展開しているのかなと見ていました。一方で婚姻率について
は、栃木県より低いということでした。自治医大があるというのは下野市の
特徴の一つでもあって、そこにいろんな人が集まってきているように思えま
す。私どもの事務所でも下野市在住の方がかなりいるということで比較的住
みやすい地域かと思っています。その掲示板を見ましたが、栃木県の14市の中
でNo. 1の住みやすい市に選ばれたというようなものもありました。そうい
った皆様から評価されている点をさらに伸ばして取り組んでいければ、どん
どん良くなっていくのかなと思います。昔と違い、子育ては非常に難しく、
多様化、子どもの減少、コミュニティの崩壊、様々な状況にある中でどのよ
うにやっていったらいいのかというのは、おそらく誰にも100%の成果を出せ
ないのかなと思います。そういった中でも、いろいろなことを考えて、同時
期に他の市町でもこの計画を策定していると思いますので、そういったとこ
ろと情報交換をして、いいものを下野市に取り入れていただければ、
さらにいいものができるかと思いました。今回の資料を見ましても、いろん
なもののデータを使って分析していますので、今後いい計画ができるのでは
ないのかなと感じたところです。

(佐間田会長) 皆さん、ありがとうございました。最後に一つ、前回のとき、ぜひ市長にアンケートの自由意見とかを読んでほしいと事務局にお伝えしたと思いますが、その後どうなったか教えていただいてもいいでしょうか。

(事務局、添野課長補佐)

お配りした資料が全体を網羅したものではなく、結果を取りまとめた概要版のようなものだったので、全ての自由意見についてお示ししたものではなかったということでした。どこかの機会で議会にもお示しをさせていただきたいと考えているのですが、この計画の作成が進んで素案が出来上がったタイミングで、付属資料としてお示しできればと考えています。

(小倉委員) 今の話は子ども子育て会議の意見として、市長にぜひ見てもらいたいということでしたが、それはまだ見せてないってことですか。

(事務局、添野課長補佐)

大変失礼しました。全体を網羅したものではなくて、簡易的なものを使ったものですから、全体版に作り直してお示しさせていただきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

(小倉委員) 概要版にせず、あのままの生の自由意見を見てもらいたいということでした。今回小学生にとった自由意見はこのまま出ているわけです。よくそのまま出したなど逆に思いましたし、もう少しまとめないと印刷の無駄になるよなど思いました。これはそのまま出すのに、そっちはなぜ概要版なのって話になるから、そこはちゃんと出していただきたいです。

(事務局、添野課長補佐)

わかりました。工夫をしましてお示しできるようにいたします。

(小倉委員) 施設長会議でもこんな意見があって、子ども・子育て会議の中でもこんな意見があって、それを市長に知らないのですかと聞いたら、市長は知らないってなってしまう。アンケートでいっぱい意見が出ていましたよ、知らないんですかって聞いたら、そんな資料もらってないから知らないよって言われてしまうのは、事務局としてよくないのではないですか。

(事務局、添野課長補佐)

わかりました。今回のこどもアンケートも含めまして、前回の自由意見についても、すべて網羅ものでお示しをさせていただきたいと思います。

(佐間田会長) ぜひお願いします。生の意見が大切だと思うので、どうぞよろしくお願ひいたします。あと一点ですが、先ほど地域の話が出ていましたが、教育委員会では南河内小中学校を作るときに、地域の核になるように、そこに新しい家が建って人が集まってきて、ボランティアが入って、おじいちゃんおばあちゃんと繋がるようなものを目指しています。でもそれは私も教育委員会の中に入ったからわかったことで、子どもの関係ない人にとっては一歩が入りづらいと思います。今日お話を伺って、やはり地域の人もそう思っているのだなと思いました。また、これを事務局がどの程度ご存知なのかなとも思いましたし、やはり市の中で先ほどの事業の横渡しがないとできないものだと思います。子どもと関わる部署同士で方針を確認して、共通の思いを伝えていただきたいなという思いがありました。先生方の仕事はよく大変だと聞きます。何が大変かという、運動会が大変という意見がありました。市民の運動会は人が集まらないですし、だったら子どもを分けずに、幼稚園とかも全部合同にしたら、地域の人が集まるのではないのかなと思いました。難しいかもしれませんが、そう思って向こうで言ったところできっと何も伝わらないし、こっちに言っても伝わらないのだろうなと思いましたので、言わせていただきました。中で働いている人は難しいと思うと思いますけれど、そこの横の繋がりをぜひ作っていただけたらと思います。よろしくお願ひいたします。では本日の議事は終わりましたので、事務局に進行を戻したいと思います。

(事務局、浅香課長)

ありがとうございました。それでは5. その他に移らせていただきます。この計画の策定に係るもの、またしないものなど市でも様々な取り組みを行っております。取り組んでいる内容については毎回この会議の中で、小まめに情報をお伝えしたいと思っておりますので、今日はそのご案内をさせていただきます。それでは事務局からお願いします。

(事務局、篠原課長補佐)

【資料 10 に基づき、施設の意向調査結果について説明】

(事務局、山家課長補佐)

【資料 11 に基づき、病児保育について説明】

(近藤委員) 質問ですが、以前保育園には第三者委員がありました。第三者委員がなくなった話も聞きましたが、あるところもありますか。

(事務局、山家課長補佐)

公立保育園にはあります。私はまた別の立場で、児童館や支援センターに来るお母さん達が、保育園にこれから入れたいけど、どうしたらいいかわからないなどの相談を受けています。最近では市外から転入してくる方が増え、どの園もわかりません、どうしたらいいですかなどの相談を受けたりするので、チラシを見せながら説明をしますが、やはり迷うお母さん達があります。そういった時には教育の方針を聞かせてもらい、ニーズに合った園を紹介させてもらったり、私が実感した良い面とかを話させてもらったりしています。入れるかどうかは審査があるので難しい部分がありますが、選び方でうまく園とマッチングさせてあげられればいいなと思っています。園を決めるのは保護者ですが、そういったところで悩んでいる人がすごく多いのだなと、ここ2、3年で実感したところです。第三者委員会とは違い、保護者と子どもが居られる場所の紹介をしたり、園の良いところを紹介したり、園でやる行事を耳にしたときには支援センターで紹介したり、そういった活動をさせていただいています。

(藤川委員) 赤ちゃん訪問や見守り訪問に行っていると、今ちょうど来年度入所の保育園の申請が始まっているところなので、他から来たお母さん方からどこを園が良いですかなんて質問をよくされます。今までは、こども家庭センターの隣にそういう場があるから行ってみてと言っていたのですが、利用者支援専門員がいるからその人に相談してみてと積極的に紹介してもよろしいですか。

(事務局、山家課長補佐)

もちろん大丈夫です。フレッシュママ・パパ教室で私も説明させてもらっていますが、妊娠8ヶ月のときには考えられないだろうから、もし何かあったら子育て応援課の窓口に来てくださいねと案内もしていますし、より保育園のことを知りたければ、山家を指名していただければと思います。あとはなかなか市役所に来られない方、児童館や支援センターだから気軽に喋れるという方は、児童館長やセンター長が話を聞いてくれたりしますし、私がそれらの施設を巡回する日程は決まっていますので、予定が合わない方には予定を合わせて訪問させてもらっている場合もあります。

(藤川委員) 7月生まれの方から聞いたお話だと、途中から入れないから、4月から入れようかなということをととても多く聞きます。他の月の生まれた赤ちゃんの途中入園は、狭き門なのでしょう。

(事務局、山家課長補佐)

途中入園で7、8月になってしまうと、昨年一昨年まではまだ空いていたという園でも、今年は結構いっぱいになってきている状況です。入れないから

少し早めの入りやすい時期に入れたいという方もいれば、園を選んで空きを待っているお母さん達もいます。途中入園が難しい年代は1歳児、3歳児が多いかなと思いますし、0歳児だと入れたりするので入園を早めている方も中にはいらっしゃるかなと思います。

(事務局、添野課長補佐)

【資料13に基づき、おむつ券配布状況について説明】

(事務局、浅香課長)

事務局からの説明は以上になります。質問などございますか。

(新田委員) 個人的な意見ですが、この病児病後児保育事業の紙は初めて見ました。これはいつ知れるものですか。小学生まで預けられるとか、今この紙で初めて知りました。私は働いてないから子どもを見られますが、今後働こうと思ったときに、自分でネット検索して、預けられるところはどこだろうとか、当日探さなきゃいけないのかなとか、これはいつ知れる情報なのかなと思いました。みんな普通知っているものですか。小学生まで保育園や幼稚園が預かれるんだとか、料金は150円なんだとか、今初めて知りました。これはみんなが知っておいたら安心ですし、ただそうするとみんながみんな預けに行ってしまうかもしれません。2ヶ所増えましたと言われても、そもそも今初めて知ったから、もっとみんながちゃんと知れるようにした方がいいんじゃないかなと思いました。私も今後働こうかなと思っていたので、こういうのがあって預けられると、少し安心感がありました。多分これを知らない人が結構多いんじゃないかなと思いました。この紙はしっかり作ってもらっていますが、配布されているのですか。

(事務局、山家課長補佐)

今回の資料として作ったものです。

(新田委員) やはり自分で調べなきゃいけないということなんですね。

(事務局、山家課長補佐)

出生届時に全員にお配りしている子育てハンドブックに掲載していますし、幼稚園・保育園に入る時にも情報提供をしています。各園からの情報提供もあるかと思っています。

(新田委員) 子育てハンドブックは内容が多すぎて見ていませんでした。もう少し推してもらおうとか、こういうのがあるとか、みんなが知れた方がいいかなと思いました。

(事務局、浅香課長)

ありがとうございます。それでは次の会議の開催につきましては、第1回の会議の中でお示ししましたスケジュールに基づきまして11月を予定しております。次の11月の会議のときには、計画の素案をお示ししたいと思っております。日程については決まり次第、ご通知を差し上げたいと思いますので、よろしくをお願いします。また今回メールで資料を差し上げましたが、今後メールでご意見のやり取りなどもさせていただければと思っております。基本理念なども今後皆さんのご意見を踏まえて決めていくということになりますが、ここはメールのやり取りでもできるかなと考えておりますので、そういったところで活用させていただきたいと思っております。資料については紙で送らせていただきたいと思います。それでは以上をもちまして、令和6年度第2回の下野市子ども・子育て会議を閉会といたします。大変ありがとうございました。

以上

会議の経過を記載し、その相違がないことを証するためここに署名する。

.....
会 長

.....
議事録署名人